

糖尿病の合併症管理最前線

～医科・歯科それぞれの立場から～

日時：12月8日(日)午後2時～

会場：兵庫県私学会館101号室

神戸市中央区北長狭通4丁目3-13
JR・阪神元町駅東口から徒歩3分

参加費：無料

日本糖尿病協会
「療養指導医取得のための講習会」
「歯科医師登録医のための講習会」
登録済
*当日受講票をお渡しします

糖尿病の合併症管理最前線

講師：新須磨リハビリテーション病院院長 芳野 原 先生
東邦大学名誉教授

先進諸国のみならず我が国においても糖尿病患者数の激増が大きな社会問題となっています。糖尿病患者数の増加はただちに医療費の増大にむすびつき、糖尿病関連の医療費は国民総医療費の10%を凌駕するものと考えられます。糖尿病の3大合併症としては、網膜症、神経障害、腎症が挙げられますが、とくに腎症進展からの透析導入阻止は、医療費抑制の点からも第一線の臨床医にとって極めて重要な命題となります。一方、糖尿病症例は非糖尿病症例に比べて心筋梗塞や脳梗塞発症の頻度が高いことも良く知られています。最近の合併症管理についての話題としては、海外の大規模介入試験において、厳密な血糖管理がむしろ心血管イベントを増やす可能性が示されたこと、そして平均血糖値を表すHbA1cの管理のみならず血糖の変動幅(スイング)の管理が血管合併症管理に重要であることが報告されています。また、糖尿病症例の易感染性も最近の話題で、とくに高血糖のまま歯周病を放置しておく、心内膜炎の原因となる可能性があり、外科手術前の歯周病の管理は術後の合併症回避のために必須のものと考えられます。本講演では、腎障害への早期介入を含めた糖尿病の合併症管理についての最近の話題についてお知らせしたいと思います。(芳野記)

「糖尿病と歯周病」～一臨床歯科医の視点から

講師：高知県・のむら歯科院長 野村 圭介 先生

近年、様々な研究から「歯・口の健康が全身の健康」に関わることがわかってきました。特に、歯周病は糖尿病の第6番目の合併症として認知されています。糖尿病は、合併症の進行が大きな問題ですが、3大合併症である「糖尿病網膜症・腎症・神経障害」などの予後に比べたら「歯がなくなることなんて・・・」と思われそうですが、「食」ということで大きく関わってきます。糖尿病患者さんの食事療法は、しっかりといろいろなものが噛めることが必要です。また、運動療法を含め、患者さんのADLやQOLにも大きく関わってきます。歯科からの連携をお話させて頂ければと思っています。(野村記)

～お問い合わせは TEL 078-393-1805 神戸支部担当 沖野・納富(ノド)まで～

参加お申し込み FAX返信：078-393-1802

地区	区	医療機関名	
参加者氏名		参加人数	人
連絡先TEL			

兵庫県保険医協会

264号 2013年11月25日

神戸支部ニュース

発行 兵庫県保険医協会神戸支部

連絡先 〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31 神戸フコク生命海岸通ビル5F

兵庫県保険医協会 TEL/078-393-1801 FAX/078-393-1802

神戸支部第34回総会・記念講演「『医療否定』ブームをどう考えればいいのか」

医療者の責任呼び起された



22人が参加し熱心に学習・交流した

神戸支部は10月19日に協会会議室で第34回総会・記念講演を開催。22人が参加した。記念講演は、神鋼病院附属新神戸ドック健診クリニックの村田幸生先生が講演。「『医療否定』ブームをどう考えればいいのか」をテーマに、とりわけ終末期において医療が果たすべき役割と、「医療否定本」をはじめ医療を不要とする言説が広く受け入れられている現状に医療関係者として反論する必要性を訴えた。参加者の感想文を紹介する。

医療従事者としての自分達の責任を呼び起こしていただいた講義でした。

誰もが病気になったら早く治りたいし、できたらなりたくない。そのためには医療は必要であるし、そのために医学が発達してきたことは間違いないと思

ます。ただし、終末期の医療というのは、治すための医療とはアプローチ方法が異なり、患者というより臨死者(私の造語)として接する必要があります。私自身もちろん死ぬという経験をしていません
----- (2面に続く)

(1面から続く)-----

が、死へと至る過程は精神的にも肉体的にも楽なものではないでしょうし、苦痛が無いとしても死への願望が無い限りそう簡単には受け入れられるものではないでしょう。臨死者に対する医療はホスピスがその一つですが、がん患者などおおよそ余命の定まった患者が対象です。現在はあらゆる診療科の病棟医が、主治医として試行錯誤しながら他の医療従事者と共に臨死者への医療を担っているのが実情です。

自分自身の問題としても、自分の死期が迫ってきた時、医療は私に何をしてくれるのか、想像もつきません。というより、自分の最後がいつでどのような状態になるのか想像ができないので、問題自体を先延ばししてしまっています。自分のことでもこの有様なのですから、肉親



「医療否定ブーム」への反論の難しさと必要性を強く訴えた村田先生

を含め他人の死を考えると益々混乱します。最終的には、限りある医療資源をどのように分配するかという問題に収束するのですが、こういう問題になると、議論が延々と続くばかりで、結論を出す人がいないことが多い。死期を人間の支配下におけるほどまでに医療が発達してきている現在、早く結論を出した方がいい問題なのではないかと思えます。

【中央区・加茂 統良】

会 員 投 稿 かざみどり通信14



観るスポーツとしてのフットサル

大角 俊夫 先生(中央区・おおかど歯科医院)

神戸にフットサルのプロチームがあることを皆さんご存知でしょうか？2007年に日本フットサルリーグ(通称Fリーグ)が開幕して、7年目を迎えた今期は10チームが合計36試合のリーグ戦を各地で戦っています。去年はフットサルのワールドカップに三浦カズが日本代表として加わったことで、一時話題にもなっていました。街中にフットサルコートがあるのも珍しくはありませんし、夜や週末にはお洒落なユニフォームに包まれた若者でにぎわっていたりもします。フットサルコートでボールを蹴った経験のある方も大勢おられることだと思います。

ところが、サッカーは観るけれど、フットサルはするだけという方が大半のように思えます。観るスポーツとしてのフットサルには、サッカーと違った魅力があります。

サッカーに比べ狭いコートの中で行われるので、そのスピードや展開の速さに最初はついていけないほどです。選手の動きも激しく、ゴールシーンも多く観られます。観客を魅せるテクニックやチームプレイに会場は大興奮です。コートの



「デウソン神戸」公認カメラマンとして臨場感あふれる写真を撮影

すぐ脇に観客席があることの臨場感はこのスポーツではなかなか味わえないことです。

ご縁があって、デウソン神戸の公認カメラマンとしてコートサイドで試合撮影をさせていただいて4期目になります。観るスポーツとしてのフットサルが世の中に広まっていくことを夢見ながら、今年もシャッターを切っています。

支部ニュースへの投稿を募集しています

支部ニュースへの投稿を募集しています。日常診療にかかわることや、主張、趣味のお話などお寄せください。



電話 078-393-1817/FAX 078-393-1802 e-mail ntm@doc-net.or.jp 担当：納富まで

ラジオ関西番組出演

「医療知ろう！」

10月3日スタート!

毎週木曜19時40分頃~20時

AM558kHz

(但馬放送局1395kHz)



協会ホームページからも視聴いただけます
<http://www.hhk.jp/topics/2013/1028-140814.php>

開業医手作り
月替わり健康情報

TEL:0120-979-451

健康情報テレホンサービス

12月のテーマ

- 【月 曜】 子どもに多い溶連菌感染症
- 【火 曜】 ムせて咳きこむ「誤嚥」の話
- 【水 曜】 誤嚥の原因とその防止策
- 【木 曜】 冬の感染性胃腸炎の話
- 【金土日】 くも膜下出血の話
- 【年末年始(12/27~1/5)】
日常動作と腰痛

一美しく華やかなフォームで毎日を!



病気やケガの休業に備えて、高い保険料を払っていませんか?

休業保障制度

休業保障制度は、保険医協会会員のための助け合い共済制度です。

7つのポイント!

1. 割安な掛け金が満期まで上がりません
2. 掛け捨てではありません
3. 最長75歳まで、730日の充実保障
4. 自宅療養、代診をおいても給付
5. うつ病等の精神疾患、認知症も給付
6. 妊娠・出産に起因する併発病、帝王切開も給付
7. 弔慰・高度障害給付あり

好評受付中!
2014年1月20日まで

お問合せは共済部まで
☎078-393-1805